

小 児がんと診断されたことは、お子さまにとってもご家族にとっても、とてもつらく、そこに向き合うことは簡単ではないことだと思います。

神 奈川県立こども医療センターは、小児がん拠点病院として、お子さまやご家族を全力でサポートさせていただきたいと思っています。

小児がんと診断されたお子さまやご家族に提供することができる支援についてご案内します。



こ こに書かれていることは、すぐにご利用することが、難しかったり、あまり知りたくないと思うこともあるかもしれません。ただ、たくさんの部署や人がみなさんと一緒に考えたり、支援をする存在であることを知っていただくとうれしく思います。

そ れぞれの部門について、もっと詳しく知りたいときや利用したいときには主治医や病棟看護師、また小児がん相談支援室の「小児がん相談員」まで、ご相談下さい。

小児がん相談支援室

場 所 / 1階 7番 相談窓口

受付時間 / 8:30-17:15

Tel: 045-711-2351 (代)

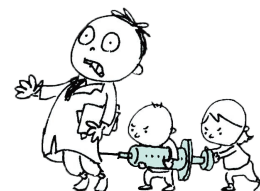
Email: shounigan@kcmc.jp

お電話やメール相談も
受け付けております



「家族サロン」「栄養サロン」「健康教室」などの開催日時や、その他イベントなどのお知らせについては病棟掲示板および、1階の小児がん相談支援室掲示板でお知らせいたします。

不明な点などありましたら、小児がん相談支援室相談窓口(7番)までお問い合わせ下さい。



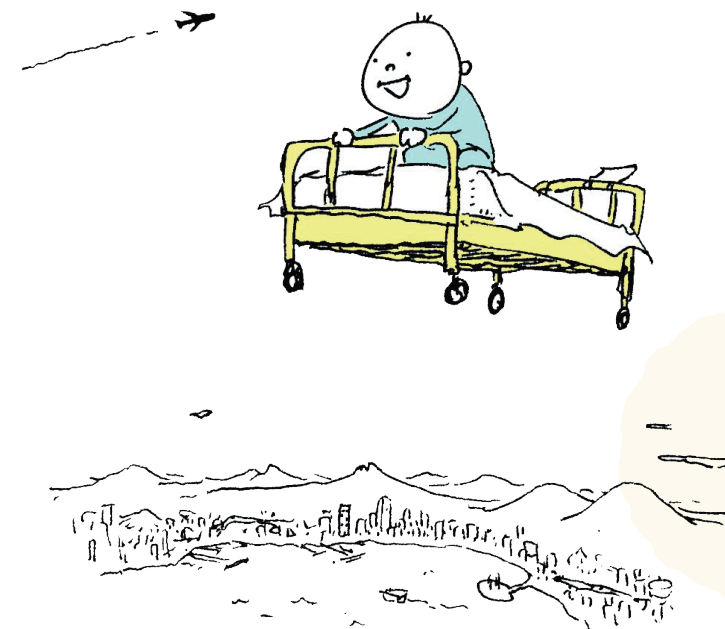
がん情報サービス

国立がん研修センターがん対策情報センターでは、小児がん拠点病院をはじめとする地域の小児がんの対応施設の情報や小児がんに関する様々な情報を掲載しています。

国立がん研究センター
がん情報サービス
サポートセンター



小児がん 相談支援室



地方独立行政法人 神奈川県立病院機構
神奈川県立

こども医療センター

神奈川県立こども医療センター 小児がんセンター

kcmc.kanagawa-pho.jp/shounigancenter

小児がん相談支援室

情報提供

医療費助成・助成金・基金など

- 小児慢性特定疾患
- 特別児童扶養手当
- 身体障害者手帳
- その他NPO団体からの助成金や寄付金 など

※各助成金や基金などは、お子さまの病状や治療、ご家族の経済状況などにより受けられる条件が異なりますので、詳細については、相談窓口まで、ご相談下さい

こどもの脱毛への支援

- ウィッグの紹介

※年齢により無料で作成する団体や帽子などがご紹介できます。
ただし、ウィッグの作成は注文から約2ヶ月かかりますので、ご予定などある方は、お早めにお問い合わせ下さい

きょうだい児支援

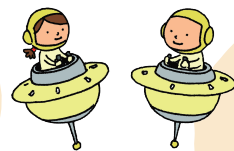
- きょうだい一時預かり資源のご紹介

その他の情報

- 病気や治療に関する情報
- 支援団体に関する情報
- ご家族滞在施設に関する情報 など

家族支援

月に1回、定期的にご家族同士の交流の場「サロン」を開催しております。退院後にご家族向けの講演会や座談会「家族教室」や「小児がん経験者の会」を開催しています。



相談対応

小児がん相談員を中心に
このようなご相談もお受けいたします。

病気や治療に関連する
ことに、どのように
向かっていけばよいのか…?

誰に どこまで 何を
伝えたら良いのか…?

学校はどうしたら
良いのか…?

きょうだいの世話は
どうしたら良いのか…?



「こんなことを聞いても良いのだろうか…?」と思う必要は、ありません。どんな些細なことでも一緒に考えていきます。

心理的なご相談も含め、必要であれば専門部署をご紹介します。

また、相談員とお話をされたい方は、本館1階7番窓口(「小児がん相談支援室」窓口)にお越しいただくか、病棟の看護師や医師に相談員と面談したいことをお伝えいただいても構いません。

お子さまが退院されても、治療が終わってからも、大人として社会で自立されるまで長期にわたり切れ目なく相談対応・支援いたします。

その他の支援

栄養プロジェクトチーム

治療中も「食べること」は大切な楽しみの時間です。治療中に栄養状態の悪化を招くことがあります。栄養プロジェクトチームでは医師、看護師、管理栄養士、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師が栄養面のサポートを行っています。

管理栄養士は定期的に訪問し、食事の摂取状況の確認や副作用の症状に合わせた食形態の提案などを行っています。

歯科医師と歯科衛生士は治療早期から口の中をチェックし、口内炎の予防などを行っています。「小児がんと栄養」という冊子で紹介しています。また、年に3回栄養サロンを開催しています。専門家からのミニレクチャーの他に食べることについて語り合う場を設けています。

リハビリチーム

入院や治療、病状に伴って影響を受けると考えられる運動機能の変化や発達について、持っている力を伸ばせるよう支援を行います。理学療法士や作業療法士、言語聴覚士らが状況に合わせて、お手伝いをさせていただきます。リハビリの介入は主治医や担当の看護師にご相談下さい。また定期的に「健康教室」として入院に伴い不足しがちな「体を動かすこと」への取り組みも行います。

緩和ケア普及室

緩和ケアチームは様々な「痛み」に対して、一緒に考えていきます。すべてのお子さまやご家族にとっての「からだ」や「こころ」のつらい症状を和らげるお手伝いをいたします。

最近では、治療開始早期からの緩和ケアチームのサポートが治療を乗り越える上でも大切だと言われています。

薬を通した支援(薬剤科)



安心安全に治療を継続して受け、不安を軽減できるように、薬剤師が多職種と連携して薬を通した支援を行っています。